

会議顛末書（要旨）

							記録者	本 匠							
供覧	会長			部長	次長	課長			補佐			係長			G員
件 名	令和7年度 第5回龍ヶ崎市地域公共交通協議会														
年 月 日	令和8年1月29日（木）														
時 間	午後2時00分から午後4時00分まで														
場 所	龍ヶ崎市役所 5階 全員協議会室														
出席者	<p>【出席】14名（随行：3名） 小管（達）委員（随行：池田氏）、伊藤委員（随行：菊地氏、大森氏）、寺家委員（代理：吉原氏）、池田委員（代理：井坂氏）、室田委員、廣瀬委員、中島委員、野澤委員、小菅（信）委員、板谷委員、磯貝委員、福田委員、赤津委員、橘原委員</p> <p>【事務局】 都市計画課 秋山課長、三石室長、小山係長、仲村副主査、記録者</p> <p>【傍聴】3人</p>														
会議内容 【会議次第】	1. 開会 2. 議題 3. その他 4. 閉会														
内 容 (主な意見)	<p>※ 別添資料に基づき本協議会を開催した。</p> <p>【事務局】</p> <p>1. 開会 ○会議資料等の確認。 ○定数の過半数出席により、本会議が成立した旨を報告。 （龍ヶ崎市地域公共交通協議会条例第6条第2項） ○本日の議事録署名人は、公募市民の福田委員と平成観光自動車株式会社の中島委員を指名。</p> <p>2. 議事 【板谷会長】 会議次第に従い議事の進行をしてまいりますので、よろしくお願ひします。 それでは協議事項（1）『地域公共交通確保維持事業の事業評価に</p>														

について（乗合タクシー 国補助）』でございます。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

○資料に基づき説明

- ・次第 協議事項（1）地域公共交通確保維持事業の事業評価について（乗合タクシー 国補助）
- ・別紙1「地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画に基づく事業）」
- ・別紙2「事業実施と地域公共交通計画との関連について」
- ・別紙3「令和7年度 龍ヶ崎市地域公共交通協議会 概略図」
- ・参考資料1「龍ヶ崎市地域公共交通計画別紙（地域内フィーダー系統確保維持改善計画を含む）」

【板谷会長】

ただいまの説明につきまして、質問・意見等あれば、発言いただきたいと思います。

ご意見ないようでしたら、資料のとおり承認してよろしいでしょうか。

～異議なしの声～

【板谷会長】

それでは資料のとおり承認といたします。

続きまして協議事項（2）『龍ヶ崎市地域公共交通利用促進計画（案）について』でございます。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

○資料に基づき説明

- ・次第 協議事項（2）龍ヶ崎市地域公共交通利用促進計画（案）について
- ・別紙4「龍ヶ崎市地域公共交通利用促進計画（案）」

【板谷会長】

ただいまの説明につきまして、質問・意見等あれば、発言いただきたいと思います。

【磯貝委員】

公共交通を利用する側として、P.35のように市内人口約7万5000人のうち、15歳以上である約6万7500人全員がコミュニティバスを利用した場合という想定のように、具体的な数値を示していただけののは非常にわかりやすく、公共交通を維持していく上で市民としての取組が明確化されるので良いと感じました。

また、その他のページで、このように具体的な数値を示している箇所はありますでしょうか。

【事務局】

P.35のように具体的な数値で示している箇所は他にございませんが、P.39以降の「ねらい」の中で、今後の様々な施策の展開を記載しているところです。

また、今後は市広報誌等による利用促進を図っていく中で、具体的な数値を活用して効果的な周知を行ってまいりたいと考えております。

【板谷会長】

市民目線からしますと、計画の中で明確な数値に触れていただくことはもちろん重要だと思いますが、定期的なPR・広報を行い、市民の方々に対して継続的にアプローチをしていただくことで利用促進につながるのではないかと思います。

その他、ご意見等よろしいでしょうか。

ご意見ないようでしたら資料のとおり承認してよろしいでしょうか。

～異議なしの声～

【板谷会長】

それでは資料のとおり承認といたします。

続きまして協議事項（3）『関東鉄道竜ヶ崎線の現状について』でございませぬ。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

関東鉄道竜ヶ崎線におきましては、竜ヶ崎駅、JR 龍ヶ崎市駅と龍ヶ崎市の本町商店街を結んでおり、本市の基幹的な交通手段として親しまれています。

利用者につきましては、コロナ禍以降、回復傾向にはあるものの、全体的に利用者は減少傾向にあり、大変苦しい状況が続いています。

その詳細について、関東鉄道様からご説明をお願いいたします。

【室田委員】

○資料に基づき説明

- ・次第 協議事項（3）関東鉄道竜ヶ崎線の現状について
- ・別紙5「関東鉄道竜ヶ崎線の現状について」

【板谷会長】

ただいまの説明につきまして、質問・意見等あれば、発言いただき

たいと思います。

【福田委員】

鉄道事業再構築事業を活用した場合、市の公的資金投入額は増加するのでしょうか。

【事務局】

結論として、市の負担は増加するものと認識しています。

また参考にはなりますが、例えば、駅舎のリフォームのような長期的な施設投資に対しては、国からの補助金が出るものもありますが、市の負担分については、その他の単年度負担が大変大きくならないよう起債により償還を進めていくというような形になります。

【福田委員】

鉄道事業再構築事業の活用を検討、実施する前に、短期間で実施できる取組として、ポスター等を作成し、龍ヶ崎市内の会社や学校に配布、掲示していただくのはいかがでしょうか。

【事務局】

まず通学利用への対応として、主な利用者は竜ヶ崎一高や竜ヶ崎二高の生徒が対象になるかと思いますが、竜ヶ崎一高に関しては、地域の課題探究といった活動の中で、竜ヶ崎線をテーマとして多く取り上げていただいて、様々な事業の提案や実施をいただいているという状況があります。

また以前、竜ヶ崎一高を訪問した際、市として認識し得る範囲で竜ヶ崎線の現状をお伝えさせていただいた上で、生徒にも今後の将来に向けて利用をしていただけるよう依頼はさせていただいたところで、ポスターの掲載につきましては、改めて学校と相談をさせていただければと思います。

通勤利用につきましても、ポスターの配布や掲載の依頼等は行っておりませんが、市広報誌の中で竜ヶ崎線の特集記事を掲載するなどして、市民全体への利用促進を図っているところです。

これまで、現状のような竜ヶ崎線の危機感といった部分はあまり訴えてこられなかった状況もありますので、今後の利用促進につながる効果的な周知等について、引き続き関東鉄道様と協議してまいりたいと考えております。

【室田委員】

龍ヶ崎市内の学校とは常に連携を取っており、竜ヶ崎一高や竜ヶ崎二高と様々なコラボ企画を実施しております。また、通勤利用の促進の取組として、JRのダイヤ改正に合わせた竜ヶ崎線のダイヤ見直しを継続して行っており、可能な限り竜ヶ崎線の利便性が向上するよう心掛けています。

【板谷会長】

県内の高校のホームページや学校案内を見ると、公共交通によるアクセスの記載がなく、スクールバスや自転車による登校を念頭に置いており、通学手段として公共交通を利用することを想定していないという場合が多く見受けられます。通学の際の移動手段として、高校側から新入生たちに公共交通を利用した移動を選択肢の一つとして提示し、選択いただけるように促していけると、一定数ではありますが鉄道を利用する人も増えてくるのではないかと感じております。

通勤の方の利用促進については、事業者に対して発信していくことは賛成ではありますが、容易な取組ではないと思っております。市民の方々が自分自身にとって一番リーズナブルな交通機関を選択するため、利用を強要するのは好ましくないと考えます。利用促進という視点ではなく、竜ヶ崎線の危機感について市民に情報を共有し、理解していただけるよう促した結果として、ポスター等を活用し働きかけることが重要ではないかと思えます。

【磯貝委員】

今後、本市内の人口減少等を考えると、維持していくのが難しい状況になっていくというのがよく理解できるのですが、鉄道の維持に対する国等の補助金はないのでしょうか。

【板谷会長】

鉄道の運行に係る経費の赤字分を国で補助するといった制度は、30年前に廃止になっています。そのため、もし補助を受けるのであれば、主に市や県からの補助を受ける必要があるかと思えます。

いずれにしても、市あるいは県の持ち出しが確保できない場合、鉄道の維持が危ぶまれる可能性があるため、公金を出すだけの価値があるかどうかについて、数年間をかけて議論しませんかというご提案をいただいているという認識です。

2年を目処にとご提案もありましたが、今後の経営状況によっては廃止になるという可能性も想定した上で、地域として鉄道を維持するかどうかを検討したいということです。

この議論については、存続ありき・廃止ありきといった前提を設けてしまうとなかなか良いアイデアが出てこなくなってしまうので、諸々のデータや市民の意見等を踏まえながら議論を進めていく必要があると思えます。また市としても、竜ヶ崎線を残すのかどうか、また残すだけでなく、車両等に投資をしながら運行便数の増加を見据えるといった提案もあるでしょうし、攻めの廃線という言葉もありますが、余力のあるうちに廃線して、その余力を使って路線バスの運行本数を増やしたり、延伸したりするといった判断もあろうかと思えます。このように様々な方向性がありますので、こうしたことについて

この場で広く議論をしていきたいというご提案であると認識しています。

この点については、つらい決断になるかと思えます。また、経営上維持していくのが不可能でどうにもならないという一方的なものではなく、地域の方々と共に今後も鉄道を維持していきたいというご発言をいただいたと思っています。我々としてはこれを前向きに受けとめて、4月以降もこの場でじっくり検討・議論を進めていきたいと考えています。今後事務局においても、公金をどのくらい支出できるのか、またサービスレベルの内容や可能性など、検討すべき点は多々あるかと思えますので、そういったことについて継続して協議を進められるよう、対応をお願いします。

他にご意見などありましたらお願いいたします。

【伊藤委員】

竜ヶ崎線のあり方は、本日のご説明を一つのきっかけとして、皆さんでよく議論していこうという流れになるかと思えます。また、この議論については利用促進計画の中間見直し等にも反映されるものと認識しています。

鉄道は特徴的な交通インフラであり、地域の財産であると思っております。交通としての観点のみではなく、市全体として竜ヶ崎線について議論することも必要かと思えますので、事務局には交通関係者に限らず、広く市民にも意見をいただきながら議論を進めていただきたいと思えます。

【事務局】

竜ヶ崎線の現状について、市民の皆様にご認識していただくことは非常に大事なことだと思っております。また、福田委員からもご意見があったように、市の財政負担がどれだけ増えるのかという点を気にされる市民もいらっしゃるでしょうし、竜ヶ崎線が生活圏にない方や利用したことがない方、利用しなくても生活に支障のない方、また竜ヶ崎線をシンボルやアイコンとして好んでいる方など、様々な立場の方がいるかと思えます。市民への呼びかけ方につきましては、関東鉄道様ともお話をさせていただくことになろうかと思えますが、なるべく多くの方々に現状をご認識いただいた上で議論を進められればと考えております。

【板谷会長】

竜ヶ崎線は、本市内一市で完結しており、他の自治体との調整が不要であるため、議論は比較的進めやすいかと考えております。

その他ご意見等ないようでしたら、本日の協議事項・報告事項は終了になりますので、以上で議事を終了させていただきます。

続きまして、『その他』について事務局から説明をお願いします。

3. その他

・ 情報提供

関東鉄道路線バス昼間割引の見直しについて

【板谷会長】

路線バス昼間割引制度について、20年以上にわたる制度ということですが、導入した際の趣旨やきっかけをご存じでしたら教えていただけますでしょうか。

【事務局】

本制度が始まった経緯として、本制度が開始した平成14年度から市のコミュニティバスの運行を開始しておりまして、当時のコミュニティバスは1乗車100円でしたので、乗継ぎを考慮した場合、200円で市内全域までの移動ができるといった考えがありました。

この点につきまして、路線バスも同様の考え方に基づき上限を200円とすることで、コミュニティバスや路線バスといった交通手段全般において、概ね200円を支払えば市内全域への移動が可能といった仕組みを構築したいという考えがあったところです。

【板谷会長】

コミュニティバスと路線バスとで多額な費用負担に差が生じないように設けた制度と認識いたします。

この趣旨に則った対応案ではないような気もしますが、時代の流れに応じてやむを得ずという理解でよろしいでしょうか。

本制度自体、非常に良いものだと考えております。本市は相応の広さがあり、昼間の移動に関して定期等を利用していない方々、会社等で交通費の支給がない方にとって、昼間割引があることは公共交通の利用促進に非常に大きな効果をもたらしていると思っております。一方で、コミュニティバスと路線バスの運賃に違いが生じていることも事実ではありますので、鉄道・路線バス・コミュニティバスといった公共交通全体の運賃について連動した形で議論できるよう、資料の作成をしていただければと思います。

【小管（達）委員】

事務局として、本会議で委員に対してどういった意見を求めているのかというのがなかなか見えないような印象を受けます。そうした点を考慮した上で資料を作成されているのでしょうか。

【事務局】

まず、本制度に関して申し上げますと、現在に至るまでの議論の経緯を踏まえた上で、今回報告事項として作成いたしました。委員の皆様には、この内容を踏まえつつ、ご質問があればこの場で回答させていただきたいといった趣旨でこの資料を作らせていただきました。

その他の資料ですが、乗合タクシーのフィーダー系統補助金や利用促進計画につきましては、内容全般に関してご意見をいただき、また、竜ヶ崎線に関しましては、現状や今後の議論での方向性等についてご意見をいただければと考えていたところでございます。

【小管（達）委員】

一方的に情報を投げられているような印象も受けますので、そうしたところをより明確にさせていただく必要があるかと思えます。

【板谷会長】

事務局側の提案について一方的な承認を求めているわけではなく、制度上に問題がある場合はご指摘いただかないといけませんし、それ以外の内容についても、何か感じたところがあれば自由にご発言いただきたいという趣旨で資料を作っていたいただいているものと認識しています。

こうした協議会の場でないと、市内の公共交通に関わる政策や情報を把握したり、それに対して意見あるいは意思を共有したりといった機会がないため、事務局側には少し多めに資料を作成いただいていると認識しております。

先ほどから申し上げているところではございますが、何かご意見があれば遠慮なくおっしゃっていただきたいという考えでおります。

【廣瀬委員】

本制度につきましては、これまで市と調整を重ねてきたところで、利用者の増加を期待しての制度になっておりますが、こういう状況であるという点は皆様にもご理解いただければと思えます。

コミュニティバスとの運賃に差は出てしまいますが、いずれにしても使っていただけないことには残していけないというところがあります。今後の利用促進についても相談させていただきながら進めていければと考えております。

【板谷会長】

経済学における需要曲線の計算によると、通常は価格を下げると需要が増えると考えられますが、公共交通に関してはなかなかそのような形にならず、減収になる場合が多くあります。もし値段が上がっていったらもっと収入が少なくなっていたかという、恐らくそうではないであろうと思われま。

ご苦労いただきながら実施していただいている制度であろうと思えます。引き続き今後ともご協力をお願いいたします。

【福田委員】

料金体系を変えたときの利用者の価格弾力性が低いという解釈でよろしいでしょうか。

【板谷会長】

概ねそのとおりです。公共交通は必需品に近い特徴があるため、料金が高騰しても利用する人はいる一方で、料金が下がった場合に今まで乗れなかった方々が乗るようになるかということ、必ずしもそうではないということです。

今後も、事務局にご意見いただければ、ご回答あるいはご検討していただけたと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、龍ヶ崎市地域公共交通の利用実績について、それから地域公共交通職員勉強会についてということで、これも事務局より続けてご説明よろしくお願いいたします。

・情報提供

龍ヶ崎市地域公共交通の利用実績について
地域公共交通職員勉強会について

【板谷会長】

AI オンデマンド交通のマッチング率は把握できていますでしょうか。

【事務局】

マッチング率の明確な数値は把握できておりませんが、状況として、運行車両の休憩時間の関係で1台のみの運行になる時間帯がございますので、そうした場合に待ち時間が30～40分になるという場合には、マッチング率の低下につながるかと思います。

【板谷会長】

マッチング率について、運営側として認識はしておいていただいた方が良く考えます。AI オンデマンド交通「のるーと」の利用は好調で、評判も良いと聞いております。今後、利用者が増加した場合、待ち時間が長くなり、結果として評価が下がってしまうという想定もされますので、可能な限りで構いませんが把握できるよう努めていただければと思います。

【福田委員】

キャンセル率はわかりますでしょうか。

【事務局】

今年度4月から12月の数字ですと、約1万件の予約に対して、キャンセル数が約1,700件となっております。なお、この数値には、初回登録後に試しに予約をしてキャンセルするといった方の数も含まれております。また、乗降場所に不在といった無断キャンセルは200件程度あります。

【福田委員】

運行を開始して間もないため、試しに予約してもらうのは良いと思います。また、外国で多く利用されている「Grab」という乗車アプリは、急なキャンセルを行うと利用者の評価が下がるといった仕組みがあります。のるーとも今後の利用状況によっては、こうした仕組みを検討いただいてもよいのではと思いました。

【板谷会長】

「Grab」は、東南アジアで使われているライドシェアでタクシーのような移動をしたい時に使うものです。一般的な仕組みと異なるのは、乗務員が利用者进行评估でき、乗車のマナーが悪いといった場合、次回以降のマッチングがしにくくなるといった仕組みになっています。なお、日本のアプリでは、あまり実装されていませんが、導入しても良い仕組みであると思っています。乗務員の側でも利用者を選別できるようにすべきであると思いますが、現実的ではないのが正直なところです。

ノーショー数 200 件とのことですが、この数値は多くも少なくもないのではないかと考えています。また、増加している場合は評価の低下につながることも想定されますので、月別のキャンセル数の増減も把握しておくべきであると考えます。

その他、質問・意見等あれば発言いただきたいと思います。

【事務局】

・次回会議について

6月を予定

竜ヶ崎線を議題として取り上げる可能性があるため、6月より前倒しでの開催となった場合には改めて連絡する。

・委員の委嘱期間について

令和8年5月末日委嘱期間満了となるため、3月を目処に照会の依頼をする。

市民公募については、広報紙等を通じ募集予定。

・委員報酬の支払い時期について

2月13日（金）または2月20日（金）を予定。

【板谷会長】

その他、委員の方から何かありましたら、ご発言お願いいたします。

【福田委員】

龍ヶ崎市地域公共交通利用促進計画（案）P.44の中で、窓口等での対応のほか、市内公共交通利用者等のアンケートを実施するという旨

の記載がありますが、次回以降のアンケートでは、公共交通利用者のみを対象とするのではなく、普段公共交通を利用しない人にも回答してもらうほうが良いのではないのでしょうか。

利用者の増加策として、利用しない理由を分析した上で対応策を練った方が良いのではないかと思います。

【事務局】

利用者だけでなく、普段公共交通を利用しない方に対するアンケートも必要だと思います。一方で、一定のコストを要する事業にもなってしまいますので、予算全体を鑑みながら今後検討してまいりたいと思います。

【板谷会長】

先程のご意見には賛同いたします。コスト面の課題もあろうかと思いますが、利用に至らない方々も含め、意見が醸成されないことには公金の負担額に関する意思決定はできないと思いますので、市として前向きにご検討いただければと思います。

【福田委員】

Google マップにコミュニティバスの経路検索が導入されたようなのですが、他市町村の事例を参考に、主要停留所にこの内容を周知するようなチラシを貼り付けてはいかがでしょうか。

【事務局】

これまでもサイト運営側と調整を続けてきたところで、先日ようやく一つの形になったところです。まだバス停の位置のずれなど、修正すべきと思われる点がありますので、こうした点の対応を終えられた段階で周知を進め、多くの方にご利用いただけるような体制を取っていきたいと考えております。

【板谷会長】

その他、委員の方から何かありましたら、ご発言お願いします。特になければ、本日の会議を閉会します。

4. 閉会

令和 年 月 日 議事録署名人 _____

令和 年 月 日 議事録署名人 _____